



1/10畳の和室を約8畳にサイズダウンして移築。とてもマンションの一室とは思えない空間。「エコ住宅リサイクルバンクでは、歴史と文化、そして職人の技を忠実に残すことを目的として、古民家の再生活動を行っています」と二藤さん。2/再生復元した和室と窓の間には、縁側のような廊下を設けている。3/古建具とともに書院障子もそのまま再利用。4/職人技が光る欄間の細工。二藤さんいわく「昔の職人の技を再現する者が少なくなっているからこそ、残すことが大切なんだと思います」。5/柱や鴨居は、水拭きのみ仕上げ。

移築設計 | エコ住宅リサイクルバンク
050-5526-1463
写真 | 宮坂政邦

捨てたくない 歴史と文化を マンション内に移築

古材利用 05 神奈川県横須賀市 「高橋邸」

「高橋邸」は、単なる古材利用リフォームではなく、マンションができる前、この土地に建っていた古民家をマンションへ移築した例。今から約6年前、施主の高橋さんが長年住み続けてきた家は、解体され、その場にマンションが建つことになっていった。しかし、おじいさんの代から続く家への愛着が強く、なんとが移築再生ができないかと業者を捜していた。そんな折り、エコ住宅リサイクルバンクの理事長であり、建築施工会社（有）シン

セリテイ・トリートメント・カンパニー代表取締役でもある二藤忠さんと出会う。「調査の結果、構造物や木製建具は十分利用でき、書院などはとても素晴らしいものでした。ただ、移築先の土地が見つからなかったため、民家解体後に建つマンションのデベロッパーにスケルトンで購入したいと交渉し、古民家のうち、10畳の和室をサイズダウンしてマンション内に移築した。二藤さんいわく「歴史、そして文化として空間を残すという意義ある再生でした」。

DATA

- 家のつくり マンション
- 家の広さ 30坪（うちリフォーム約4坪）
- 改修の形式 マンション内移築再生
- 家族構成 大人2人



